常磐毎日新聞
七月二十八日夕刊
日刊
發行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
電話 六三〇番

突きつめた乙女心よ
空しく散る紅魂二つ
三人一緒の從軍願ひが
釀し出した哀話

祖國愛に燃ゆる乙女心の一念から從軍看護婦を志して容れられず遂に服毒して青春の身を空しく散り果てた二人のうら若い女性がある—好間村石井ヒサ子さん(二三)は去る十四日夜自宅でカルモチン自殺を遂げたが平署から係官が檢視の結果その死を巡つて左記の事情が判明した

ヒサ子さんは平市仲間町西村ハルさん(二三)好間村工藤キミ子さんの二人と共に平產婆看護婦學校を卒業して內郷村島田醫院の好間分院に看護婦として一緒に勤めて居たが昨年六月三人は揃つて福島、茨城兩聯隊區司令部に從軍看護婦の嘆願書を提出しキミ子さんのみ許されて二人は採用にならなかつたので遂に取り殘された二人は世を果敢なみ自殺を決意し前記ヒサ子さんの服毒自殺に相次ぎハル子さんも昨報の如く廿六日午後五時矢張り服毒自殺を遂げたもので二人の遺書にはキミ子さん宛『力及ばぬ我々二人の分迄國の爲めに働いて下さい』との遺書が殘されて居た

四百圓拐帶した
幽靈人夫の詐欺
住吉屋本店に頑張り
出鱈目電報を飛ばす

住吉屋本店を根城に幽靈人夫の詐欺を働き逃走した犯人あり平署では各方面に手配捜索中であつたが今二十八日猪苗代署に捕はれた旨けふ午前十時半頃同署に通知あつたので柴田署長始め一同喜んでゐる

犯人は岩手縣生れ前科二犯川島一喜(三五)といひ去る十七日大沼郡西方村字宮ノ下土木建築請負業岡村滑五郎氏宛『人夫見つけた直ぐ來い』の電報を打ち呼び寄せた揚句人夫は赤井村某炭礦坑夫五十餘名だが今一緒に連れて行くことは出來ない、赤井驛からこつそり連れて行くから仕度金を貸して貰へたいとて金四百圓を騙取そのまゝ逃走したもので取調べの結果同樣手段で北海道から奥羽地方を股にかけ荒し廻つてゐた强かものと判明した

餘の無錢遊興をなし逃走したが七日館村地內で植田署員に逮捕された

同人は去月下旬宮城刑務所を出所後福島驛前藤金支店へ投宿十五圓餘を踏み倒した外竊盜十數件を自白してゐる

文無し大盡

山形縣生れ前科十三犯金子常松(五六)は二十六日夜勿來町の料亭船生氏方へ登樓大盡風を吹かせて十九圓

水稻異變種
發育頗る良好
早生種に革命的福音

石城郡神谷村農試分場矢ヶ崎技手の發見にかゝる水稻早生異變種は今年も分場試驗田に試作六月十八日植付をなしたが發育狀態は頗る良好で現在植付後四十日にして出穗を見て地方早生種に比し約一ヶ月早いといふ記錄的成績を示すに至つた、この異變種については郡山本場においても頗る興味をもつて試作に乘り出し今年は縣下數ヶ所の冷害對策試驗田に移植した程で關係方面では今後の成績に少なからず期待をかけてゐる、當の矢ヶ崎技手は

この早生異變種は實際に於て出穗が早くそれだけ收穫期が早められるので果して冷害地に向くかどうか本場に於ても研究中だがはつきりした成績は今後二年三年と試作の結果でなければ判らない

と語つてゐるが昨年の分場の成績は意外に良好なので今後この名もない異變種に縣より〃奬勵〃の太鼓判でも押さるればそれこそ東北地方の水稻早生種に革命的福音がもたらされるので矢ヶ崎技手も極めて眞劍な試作研究を續けてゐる

怪しい死因
目擊者の證言

大野村大字八茎字片倉山土工吉浦櫛三郎(六二)の內妻阿部うめ(五十)は去る五日朝突然死亡、醫師の診斷を受けたところ腦溢血といふのでそのまゝ火葬に附したが最近村民の間に「殺害したのだ」といふ噂がたかまり四倉署でも捨て置けず取調べたところ實は死んだ前日の四日午後三時頃、自宅屋敷內の鷄舍取壞し作業中夫が投げた一寸五分角の木材がうめの頭部に當りてこれが死因になつたといふことが目擊者の證言に依つて判明した

同家は夫婦仲も極めて圓滿で村民の噂する殺害の嫌疑など全くないが結局過失傷害致死となる模樣で目下四倉署で檢事局の指揮を仰いで引續き取調べ中である

衞生課長巡視

味岡新任衞生課長は二十七日來平豐間村回春園、平署、平保健所を初巡視して今廿八日歸廳された

天氣豫報

今晩は東の風曇時々晴
明日は南東の風曇時々晴

郷土の生める
聖僧袋中上人
大井川幸隆
（三）

天正九年袋中三十才の秋鎌田川（今日の平市字鎌田を流れる夏井川）の渡し場に初めて架橋されたが、時の大守貞隆公の意を體し此、の渡し場に從來水沒溺死せる人畜を供養する爲め梵書の大塔婆を河中に建てた。眞言宗の巨刹にして當時强大なる勢力を有した藥王寺(現在の大野村)の僧これを蔑視し、梵字は我宗の大字にして更に他宗の知る所に非ず、とて遂に彼の塔婆を拔き捨てたのに發端し悉曇論爭が起り袋中は梵字は支那日本顯密の兩宗皆な通用すると說き、悉曇の興起より筆を起し梵語飜譯の誤謬を細辯した「梵漢對映集」なる書二卷を著はして藥王寺を屈服せしめたことがある。本書は實に袋中にとつての處女作である。其後天正十一年袋中三十二才の時禪僧虎關の有名な著作「元亨釋書」に於て、淨土宗は寓宗と貶したのを排して淨土宗の三國相承を詳述して「淨土血脈論」上下二卷を著はし、當時岩城氏菩提所としての荒川龍門寺を中心として權威を壇にする嫌ひがあつたので同書は淨土宗にとつて大きな役割を果したとも見られる。

又た三十二才には聖冏に倣つて「麒麟聖財論私釋」四卷を撰し、淨宗は頓教中の頓なる旨を明らかにし、三十四才には「大原問答端書」一卷を著はし、三十六才には「啓袋中」一卷を製した。かくの如く數種の著述を物すると共に、上人の道業は愈々進んで、三十九才には惠心僧都の「往生要集」を讀み、空觀の六萬遍の念佛を怠ることがなかつた。

天正十九年袋中四十才の時、成德寺を第十四代良憲に讓り、現在の平市に閑居した。時に岩城公の御乳母對屋大隅の母なる松岡袋方巽刀自が佛道歸依の餘り太守に願ひ菩提の爲め一字を建立したが、袋中は聘せられて暫くこの庵に錫を留めたのである。

慶長四年の春、岩城貞隆公深く袋中に歸依し、大舘城內に稱名の道場を建立して菩提院と名づけ上人を招請して開山を仰ぎ、晝夜六時に勤行怠ることなく、又た袋中の淨土法門を說かれるや稱名の一行城の內外に彌まつたといふ。後ち菩提院を大舘城外に移した。是の歲關東には疫病が流行したが、袋中は自製の藥を罹民に施して大いに効を奏したが、人々はその德化に感激したのである。

慶長七年袋中五十一才城主貞隆公佐竹氏に從ひ出羽の秋田に移封左遷となつた。鳥居忠政公來平、移封に際して現在の舊城趾に城を築づくにより、菩提院は城外古鍛冶町に移されたのである。

三、袋中の琉球時代

青春時代から彼にとつての止み難い希望があつた。支那に渡つて明師の教を聽き、本邦に渡來せざる經論をも請來したいとの念願がこれである。曾てこの胸中を實兄の以八上人に披瀝した處、以八は、本邦に傳來の大藏經さへ通讀せずして入明を志すなど嗚呼の沙汰だと堅く誡めた。けれども、意志の强固な袋中は五十二才の老境に入るも尚その志止めがたく、經論の至要な句章は盡く暗誦し或は拔書きして、他日彼の地へ渡航後の便に備へた程の熱意があつた。

ビール拂底
料理屋が悲鳴

ビールの拂底は各地を襲擊、季節柄ビール黨を悲觀させてゐるが平地方も御多聞に漏れず問屋方面には一本のビールもない始末から料理屋、飲食店では山間部へ買出しに行つてると言つた珍現象を呈してをり一本のビールにさへ相當のプレミアムが附される狀態で料理屋側でも悲鳴をあげてゐる

映畫館で
スリを働く

內郷村磐炭坑夫東白川郡豐里村字寶坂生れ方野芳枝(二五)は二十三日夜第二劇場で映畫觀覽中隣席にゐた同村字宮澤遠藤正一郎さんの袂から現金三圓二十錢在中の蟇口をスリ取つたこと發覺今二十八日平署に檢擧された

稻熱病を警戒
作柄は順調に進む

地方農村における稻作は概して順調な發育を續けてゐるが一部には旱天と遲緩が災ひして稻熱病が發生しこれが蔓延するにおいては秋の收穫に拗からざる影響を蒙るので郡農會では青山技師、柴田技手を始め各町村技術員を動員してこれが撲滅、蔓延防止對策に早くも馬力をかけてゐる

義兄を毆る 磐崎

村大字白鳥字勝岡農木田周平(四八)は去る三日午後一時頃義兄の同村大井川半兵衞さん(六二)と些細のことから口論をはじめ頭部其他を手拳で毆打全治二週間の傷害を負はせ今二十八日大井川さんから平署に告訴された

隔離五十六 植田

町字本町下山田トシ子さん(四六)は二十七日腸チブスと決定隔離された、これで五月下旬から猖獗を極めた植田、勿來地方の隔離者は合計五十六名に達した

体力管理
調査始る

國民體力管理制度準備調査は鹿島村が二十二、二十四日、神谷村が二十三、二十五日、植田町が二十六日から四日間に亘り味岡縣衞生課長、赤田警部補が川張各小學校で執行されたがこの調査は體力偏重を避けて智力、過勵機能に大別調査するもので幼兒(一—六才迄)に對しては體重、疾病異狀、小學生にはツベレクリン反應(うち三年生には糞便檢査)青年層には身體、體重、胸圍、視力、疾病異狀、ツベルクリン反應をそれ／＼行ひ特に疾病は結核トラホーム、花柳病榮養障害、齒病、形態異狀に重點を置いてゐる

軍用乾草
協議會開く

平市及び石城郡下各町村における軍用乾草の供出に關する協議會は八月四日平國体事務所で開かれる

又も鰹大漁
小名濱魚市場便り

昔から鰹萬作に鰹大漁と云ふ俚諺があるが、鰹は五風十雨の恩澤に醉へる溶は鰹の大漁で山を作ると云ふ幾千年來嘗てないと言はるゝ大漁である、昨夕江名町榮福丸は一萬六千尾今朝盛厚丸は一萬八千尾、の水揚げで相場も大漁ながら高含みで上物十文と云ふ處である、之れが爲め水揚額が六千圓以上一萬圓と云ふ收入で此亦近來に見ざる船主側の利純が增大して居る

小名濱支局通信

上横町有志家
各位に釋明
支局長 小野務平

廿四日夕刊本紙々上『英靈之墓地に小公園建設』題下に其植樹費は磐城座主寄附に依つて青年團の勞力奉仕申出ての合作に出てたるが如き意味の記事が掲載されあるを見た、其夕刻磐城座主小野直千賀君(現上横町自治青年團副會長)から其記事の事實に相違の點を指摘し上横町有志家各位に對して申譯けなし適法所置せらるゝ樣にと申込みあつた

越いて二十七日午前七時小野君外二名(自治青年團幹部)來訪其報導の餘りに無責任極まる理由を詳細に述べられ新聞記事に關する事は新聞紙上に於て所置されたいと云ふ意向を以ての意見を開陳せらるゝのを拜聽し其尤もなる事を述べ適當に諒解し得る樣所置する事を約し別れた

依つて二十七日夕刊紙上小野直千賀君からの取消文を掲載し兎も角も記事を訂正して置いたので大體は上横町有志家各位も諒解し得た事だとは思ふが、支局長たる立場に於て釋明の必要ある事を思ひ茲に其行き違ひに依る誤謬を檢討して上横町有志家各位に謝する事としたのである

誤謬の出發點は七月八日夕刊本紙本欄に於て『相應しき記念事業』と題して報導した內容に盡きて居る、即ち日支事變二周年記念事業として自性院コンクリート土止め外の荒蕪地百坪以內の縣道に沿ふた地點に小庭園を建設し風致を添へて美化せんとしたもので、其發案が上横町自治青年團員に依つて決定され建設費は上横町有志各位から寄附を募り團員の勞力奉仕と相俟つて完成を見たと云ふのが實際である

如斯事態に對して磐城座主が恰も建設費全部を寄附行爲に出てたかの如く報ぜられ、は上横町有志各位の面目は丸潰れであると共に磐城座主が何等かの賣名策に新聞にでも掲載せしめたのではないかと痛くもない腹を探らるゝ事となるのだから同部落としては大なる衝擊を受けた事勿論で本町に支局を開設し其支局經營に當る記者に向つて抗議を申込む事は聊かも無理のない處である

然らば如何なる廉によつて該記事が飛び出したかと云ふと記者は二十二日から二十四日にかけて水郡線を旅行して居つた廿四日夕刊の原稿を二十三日水郡線近津驛から小荷物として出して居る(廿四日夕刊本欄參照)廿四日には不在である爲め編輯上本支局出の原稿が不足の處へ東京日々新聞福島版紙上廿四日朝刊に同記事が乘つて居る(廿四日福島版十段中央參照)本町の爲めの記事で東日の記事が何時も正確を得て居るからと云ふ見地から之を轉載したもので決して他意の存するものでない事が判明した

斯ふ檢討すると決して惡意のあるべき理由が微塵もない本町の各階級を讃美する意味に外ならない結局は記者が不在に原因して材料の送るべきものを送り足りない處に源を發して居る事が能く判明すると思ふ、其處で記者、既に七月八日付夕刊に於て然かも上横町有志家各位に對し滿腔の敬意を拂つて居る次第であるからして敢て前後矛盾のない行動に出づる筈のない事は各位の既に諒とせらるゝ所であらう、そうなる以上は釋然として此問題を取り揚げ小野直千賀君の賣名的行爲に出てない事も判明する筈でもある

—今新聞記事內容の種明しまでして釋明に勉めた次第であるから上横町各位に於かれても諒解せられん事を特に本欄に於て希ふ所である

（完）

平市人事

◎出生
△六間門一五大石傳吉氏五男美佳君
△久保町四鈴木忠治氏長女芳子さん
△三町目二一星野浦作氏五女光子さん

◎婚姻
△鷹匠町一〇佐藤弘氏(三七)新川町五玉木きみゑさん(二四)
△勿來町大字窪田字白山三八吉田彦太郎氏(六一)新川町一八橋本トシさん(三一)

◎死亡
△南町一〇譽雄氏三女長瀨光子さん(四)
△白銀町四二清重氏妻山野邊イネさん(二六)

ラヂオ

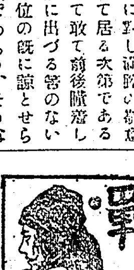
今晩の部
▼後六、〇〇 子供の時間 童話劇 天空探險物語「火星」
▼後六、二五 講演「火星近づく」理學博士川崎俊一
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇（上海より）
▼後八、〇〇 獨唱と合唱「光華門」獨唱伊藤武雄 合唱踏青會
▼後八、二五 連續ラヂオ小說「建設戰記」物語北澤彪、井上少尉小杉義男
▼後九、一〇 時事解說

明日の部
▼前六、三〇 健康講座「入浴と健康增進」
▼前九、四五 幼兒の時間 お話とうた「强い日本の兵隊さん」山形市新清幼稚園
▼前一〇、二〇 家庭の時間「興亞箱のいらない生活」
▼前一一、〇〇 幼兒指導講座「あそびの導き方」
▼後〇、〇五 土曜コンサート
▼後三、〇〇 婦人の時間「子供と共に火星を觀る」鈴木敬信
▼後六、〇〇 子供の時間 お話「蟬の一生」
▼後六、二五 講演「科學界のトピック」工博永井雄三郎
▼後七、三〇 國民歌謠
▼後七、四〇 講演「病院船の活躍」馬淵涉
▼後八、〇〇 浪花節「恩讐の彼方へ」酒井雲
▼後八、二五 長唄三絃主奏樂
▼後八、五五 連續ラヂオ小說、建設戰記、北澤彪ほか

耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平市南町一六(電話一七〇番)

旅舍 大幸館
私は平市出生ですから特に郷里の皆樣方の爲に御便利を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前(下谷郵便局横通角)
電話下谷六七七番

平病院(電六四一番)
平市警察署側【元共濟病院跡】
院主 醫學博士 鈴木定藏
內科・小兒科 院長 鈴木定藏 副院長 土井利明
內臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科 副院長 高橋俊幸
レントゲン科・物理的療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平
◎診療時間 每日午前八時ヨリ午後九時迄
(夜間診療ニ從事ス)(急患ハ此ノ限リニアラズ)
往診隨時
病室完備…入院隨時【自炊ノ便アリ】
入院料 一日 特等貳圓・一等壹圓五拾錢 二等壹圓參拾錢



戰國間諜傳
大井沢龍 作
山科一郎 画

第三十八回
眞田幸村（一）

「忠成殿、近うへ」

「ハッ」

大野修理の前に、忠成は一膝ばかり膝行出して恭々しく平伏した。

「病氣全快の趣き、上には御滿足ぢや、知らるる通り、天下の形勢は追々に緊迫り、日ならずして近畿の國境は兵馬騷亂の巷となるであらう、此度こそは御家の安危、我々の存亡、かかつて、この一戰に在ること故、御身も隨分出精、功を立て亡父光明殿の恥辱を雪がるるやう—」

「ハッ、有難きお言葉—」

「付いては、御上意ッ」

「ハ、ハッ」

その時、修理は、聲音を潤いて、

「亡父の[illegible]い功を思召され、其方を[illegible]に補し、俸祿二十萬石を宛行ふものなり、治民これを成る」

忠成はひたと平伏して

「ハハッ、有難くお受け仕ります」

とは云つたものの、今の彼には恩賞の魅力もなかつた。

「イヤ、ハヤ、笑はせるぞ、德川方を半片付けた顔であんなことを云つてゐるらしいが、二十萬石は愚か、[illegible]の首が危い」

腹の中では、そう嘲つてゐる。

[illegible]忠成が頭を上るのをチラと見つめてゐた修理は思はず眼を立てる所であつた、胸の中が嵐のやうに立ち騒ぐのを危く堪へて、何もヂツと見詰め續けてゐる。

忘れもせぬ日[illegible]、過ぐる夜の風吹雪に、妖魔の如く[illegible]に出現して、[illegible]を始め、多くの人[illegible]を悩ました[illegible]の曲者、まだ[illegible]かな忠成と、そつくり[illegible]ぬ容貌である、彼女は[illegible]へ[illegible]ねて、そつと[illegible]公に目[illegible]せして知らせると、それと早くも悟つて[illegible]ずいた。

[illegible]——遂々忠成の[illegible]の日が來たのである[illegible]、意味で、忠成の[illegible]つた通り二十萬石は一片の夢と化した、もつとも忠成は始めから夢を見てゐなかつたかも知れないが。

するとその翌日、紀州から數々父、眞田左衞門左幸村が大阪城へ乘込んで來た。

大阪城中第一の花形役者、天下分目の大[illegible]に登場する人氣者だけに、先づその[illegible]々たる行列からして見る人々を[illegible]かした。

大阪方の招きを受けて九度山を出る時に紀伊の國主淺野が前以つてこのことあるを豫想し、近邊の[illegible]本、[illegible]、[illegible]谷村等の庄屋年寄、百姓及高野山學宗徒、其他に命じて[illegible]固に警戒させ、[illegible]所々に[illegible]所を設けて、容易に下山が出來ぬやうに手配してゐた。

それを知つた幸村は一計を案じて、九度山の頂上にバラツク建の假屋をこしらへ、亡父の年忌につき、その供養かたがた、村方への御禮として粗酒粗飯を進上したい、どなた、誰人でも[illegible]、何卒打揃つて御越し下さるやうにとの觸れを出した、そして七百八分の酒と料理とを調へてこれを開放したのである。

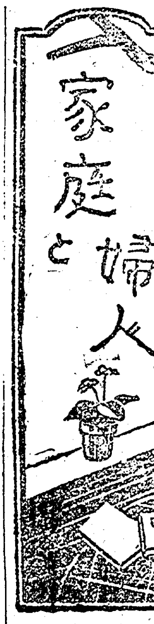
さあ堪まらない、百姓が我も我もと押寄せて飲んに飲み騒ぎ、あつち、こつちに飲みつぶれの人間がゴロ／＼してゐるといふ有樣。

その隙に幸村は電光石火、百姓達の乘つて來た馬にヒタ／＼と鞍を付け、家族を與に乘せて郎黨以下百餘人に前後を警護させ乍ら夜に紛れて、九度山を落ちた、紀の川を渡つて峠を越え、大阪を指して上る途中、風を望んで馳せ加はる浪士、鄕民どもあつて總勢二百餘名の甲冑[illegible]りになつてゐた。

それを美々しく武裝させ、途中支へる[illegible]を打破つて淺野の[illegible]を[illegible]け、岸和田から、泉州の堺へ出て一泊、使者を以つて大阪城へ明日登城の旨を申入れたのである。

待ちに待つた眞田幸村の入城と聞いて、城內は急に色めき立つた。大野治長は秀頼公の命を受け出迎ひとして老臣織田有樂齋を堺まで出張させた。

待つ間もなく眞田の手兵は何れも[illegible]めしく六文錢の旗印を[illegible]風になびかせ[illegible]々[illegible]太鼓も勇ましく玉造り口から入城して來た。



大陸の花嫁問題

丸岡秀子

大陸の花嫁問題につき二つの感想があつた。一つは拓務省のお役人たちが滿洲移民の花嫁をさがして、全國的に講演行脚を開始し、その結果は好成績で志願者が殺到してゐるといふ記事、一つは花嫁學校を實際調査してゐられるといふ本田トラ氏が、三週間の北滿旅行をへて語られた感想談ではいゝ話であると思つた。さすが實際を見てくると机の上で數字を出して何十年間に何百萬人を送らねばならぬ。それには今度は何十萬人と云つた數を實行しさへすればいゝといふやり方に一つの大きな示さを與へるものである。

〇

これは品物を送り出すやうには、絶對に取りあつかはれない問題であつて、移住する人たちの生活が、そこで幸福に營まれることを願ふのは、本國に殘る私達がたれしも考へるところである。

それには行く者も、送る者もよくこの問題を研究し、向ふの事情にも通じる必要がある。更に又、現在移住して、新しい土地の開拓に當つてゐられる人達は、色々不慣れなことやさびしさもあるだらうが、よくこれらの人達と連絡をとつて激勵し、なぐさめあふことも忘されなくてはならないと思ふ。婦人團體聯盟などでも、早速とりあげてほしい大切な問題である。

—家庭メモ—

ビンに食品類を長く貯藏したい時はビンの口に合せて吸紙を丸く切り、これを入れた上へパラフイン蠟をとかして流しこみ、更に完全にするためにコルク栓をして封蠟で封じます、かうして保存しますと長くもちます

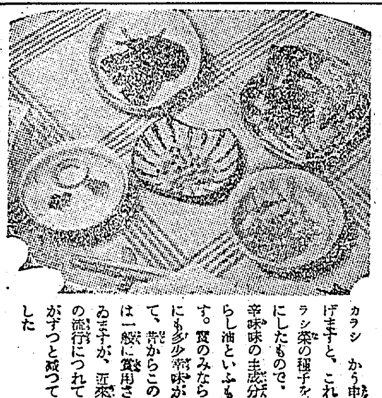
夏の食卓と香辛料

その成分と用ひ方

調味料が食もの〻味をよくし食慾を増進させるところに目的があるやうに、香辛料もこれによつて消化液の分泌を旺盛にして食慾を刺戟増進するのが目標です、そこでこの香辛料としてはどんなものがあるだらうか、もつとも普通に家庭で使用されてゐるものをあげますと大體つぎのやうなものになります

コシヨウ、カラシ、サンシヨウ、トウガラシ、シヨウガ、シソ、ニンニク、メウガ、フキノトウ、ワサビ、タデ

まづかういつたところが一般に使用される香辛料でありませう



カラシ　から申し上げますと、これはカラシ菜の種子を粉末にしたもので、この辛味味の主成分はからし油といふもので、これは實のみならず葉にも多少辛味があつて、昔からこの漬物は一般に賞用されてゐますが、近來白菜の流行につれて需用がずつと減つて來ました

このからしの辛い主成分は酵素作用によつて醗酵變化してはじめてからくなるので、水を加へてよくかくほど辛味をますのはこの理由からです。多少防腐作用の效のあるところから飲食物に加へられる場合が多い。ソースがその例です

サンシヨウ　はカラシから見ると葉も實も相當辛い殊にその若い葉は極めて強い。この辛味成分は揮發性の物質でどちらも香味料として用ひられます

トウガラシ　は最も一般的中の一般的のものです。この辛味成分は一種のアルカロイドといふものでからみは最も猛烈です、葉にも多少はからみがあるが主として實のそれも皮にあるのです

蟲どめの效も多少あつて醤油やソースの中に夏季用ふるのは周知のことですなほトウガラシにも甘口があります味以外にはビタミンA及びDが多い、この點では榮養食品であるが、一方このからみ成分は近來の研究によると骨の生成を阻害するといふことがいはれてゐます

シヨウガ　はトウガラシあたりから見るとからみも非常に穏和です。これはその中のシヨウガ油がからみの主成分で所謂新シヨウガよりも根シヨウガの方が強い、おろしにはこのほうが多く用ひられます、鯉のさしみにはシヨウガのおろしが合ます

コシヨウはコシヨウのみを粉末にしたもの白と黒があるが黒のほうがからみがつよい、成分は水溶性の物質と一種の芳香油からなり立つてゐます。

シソは實も葉も食用にされ實はさしみのつま、醤油などにされますさしみのつまとして寄生蟲を豫防するといふことがいはれてゐます。この香味はペリラアルデヒードといふ物質です。梅干の色づけに葉を用ふるので皆さまがご存じの通りです

ニンニクも一種の香辛料で主成分は硫化アリルといふ物質が存在してゐるためでビタミンではA、B、Cが相當含まれてゐます。強壯劑として需要がありますがソースなどの添味にも使用されます

メウガ、フキノトウ　など春の季節に入るべきものです。

大體香辛料は前にいつたやうに食慾を增進するために必要ですが、からみの強いものは胃粘膜、腸粘膜カタルにわるい影響を與へ、殊にカラシは腎臓病などの場合は禁物です、また一般には小兒には香辛料は別としてからみは與へぬ方がよい。

海外話題

よく買ひ　よく貯ふ

〇——ニユーヨークの庶民金融會社ではその小額金融と云ふ仕事の性質上、絶えず一般大衆の信用調査を行つてをり、右調査の結果によるいはゆる社會統計の發表は各方面の資料に基礎をおくものとして一般から興味をもたれてゐる

〇——先頃發表された本年度統計の中には特に婦人に關する項目があり、米國婦人の社會的地位を示すものとして注目される、それによれば昨年度米國婦人は一日平均八百三十六萬六千七百九弗と驚くべき消費的支出をおこなつてをり全米の百貨店の商品中八十パーセント小賣店の賣出品の七八パーセントは婦人に賣られたものであつた

〇——然し米國婦人は男子にくらべて此の如く偉大なる消費者である反面又儉約家でもあり、庶民金融會社の預入金の四十パーセントは婦人の名で行はれてゐると云ふ

鼻からお乳が

生れたばかりの赤ん坊の頭はピク〳〵波打ちうごいてゐるのが、外部からはつきり見えます。頭蓋骨が發達せず、つき目が完全でないからです。これと同じものに「口蓋破裂」があります口腔の上部の骨に、孔があいてゐるもので乳をのんでも、そのため鼻から出てしまひます。今でも地方では、不具と考へ騒いだりすることがあります、年齢が長じ、骨が發達すれば、自然なほるものですから心配はいりません

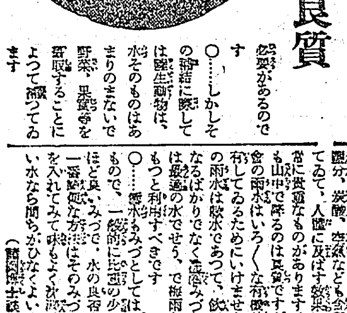
（噂）　毎月當る

東寳の岸井明は、あゝ見えて易をひどく氣にする男で、新聞雜誌のその日の運勢は必ず目を通してゐる、先日某雜誌の九星運勢欄に「あなたの今月の運勢は中旬まで幸運にめぐまれるが、二十日すぎると下り坂になり、さらに月末になるとウーンとうならさるを得ないやうな事になる」とあるのをみて「ウーン之は正に毎月當つてゐる」（寫眞は岸井明）

茶をいれてみればきがつく其の良否

純粹すぎるのはよくない　やまの雨水は良質

〇……生物は元來水の中に發生してゐるといふことが出來ます、水生動物は勿論のこと、陸生動物の大部分は水をかついで歩いでゐるのです、陸生動物の表面は、いかにも水と關係なさそうですが、中味は全くみづなので生命は水中にあるといつても過言ではありません、そして身體中の水分は絶えず蒸發したり、排泄されたりして減少してゆきますから、これを補ふ必要があるのです



〇……しかしその補給に際して陸生動物は、水そのものはあまりのまないで野菜、果實等を攝取することによつて補つてゐます

たとへば兎や猿などは生みづは決してのみません、生みづのかわりにみづ氣の多い果物によつて水分を補つてゐるのです。が、水は以上のやうに生命にとつて大切重要なものですがみづがあまりに純粹すぎますと、かへつて有害な事がありますさういふ意味で無機なみづは山間のふん泉や瀑水に多いものです

〇……かういふみづには、鑛物質の鹽分、炭酸、空氣なども含有されてゐて、人體に及ぼす效果には非常に貴重なものがあります。雨水も山中で降るのは良質ですが、都會の雨水はいろ〳〵な有機物を含有してゐるためにいけません、この雨水は軟水であつて、飲料水になるばかりでなく洗濯みづなどには最適の水でせう、で梅雨など、もつと利用すべきです

〇……雨水もみづとしては良質のもので、一般的に比重の少いみづほど良いみづで、水の良否を計る一番簡便な方法はそのみづでお茶を入れてみて味もよく沈澱物も少い水なら間ちがひなくよい水です（醫學博士談）

お臺所は豫定と整理が大切

〇……晩食後の後かた附けは殊に丁寧にしなければなりません、[illegible]や出窓の上もきれいにかたづけて戸棚へ入れるものは全部戸棚へしまひ込み、なるべく外へ出し放しにしておかないやうにします、そして野菜その他の材料の殘りをしらべ調味品などのきれたものはないかとしらべてあすのお獻立を考へてお買物の豫定表を作ります

〇……すべて最後の整理といふ事が大切です

出征軍人へ萬歳を電報で

精々活用なさい

勝つてくるぞと勇ましく故國を後に戰線へ愛國出征する我が皇軍兵士のお見送りだけは何とか都合をつけてぜひしたい物だと思つてゐてもさうはいかない場合がずいぶんあります。そのやうな時、あなた方はただ手をこまねいてぼんやりしてゐられるでせうか。と云はれても止むをえないとおつしやいますか。よろしい、こゝにそのやうな方々のために打つてつけの新しい電報方法があります。一體それは何か？日の丸の旗の波をあらはした、立派な慶祝電報用紙です、これに次のやうな電文が書かれます「御出征を祝し皇國のため御奮闘を祈る」

この料金が内地相互間は三十錢均一、十五字以内ならば被宛人の名を書いても差支へないと云ふ便利さ。どうして出すか、それは次のやうにしてください。郵便局で出征お祝ひの電報とおつしやつてくださればそれでもよいのですが、できればこのお祝ひ文の略號を書いていただけば手數もはぶけるでせう「マ」ヤマトマチ二ニハナゾノキヨシ

郵便局では前のやうに電文を書いて、早速おとどけいたしますから精々御活用なさい。

昭和徒然草

髪型の巻

不思議な現象

物價が騰つてくると、御婦人の髪型のネが上り、物價が下つてくると、それに從つてネ下りになる——といふ奇妙な現象があると俗間では傳へてゐるが、これは偶然の暗合かも知れないがそれらしく受け取れるふしがないでもない「ねあがり」となるのも、それだけ緊張した氣分が反映するためではあるまいかとも考へられる、ちかごろの所謂洋髪にしてもさうであらうか、島田、丸まげの類になるとその感が深い、さて、歐米流にうかされるのも困つたものであるがさりとて丸まげ、島田では新時代のスピード時代にはまに合はない、むやみにこりすぎない洋髪は近代型の髪型といふべきものであらう。

大陸行進譜
大川五兵衛作
若山珠美畫

六一回

戰傷（二）

「自分が一人で北京へ行つたら、後には、たとへ二三日しても敏一さんが來て下さるにしても、双葉さんと二人きりである。さうしたらどんなことがないとも限らない。もと〳〵二人は許婚の中であつたし、或ひは、敏一さんは双葉さんのことを今も愛してゐるから。自分には邪魔なのかも知れない」英佐子は一人で思ひなやみ、迷つたのであつた。

「双葉さんに行つてもらはうか」

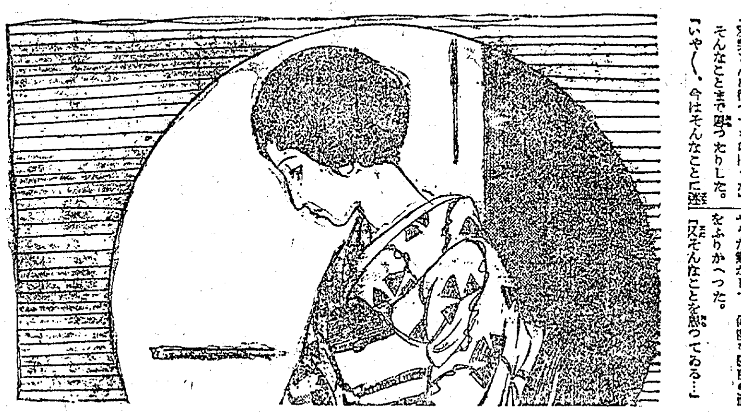
そんなことまで思つたりした。

「いや〳〵、今はそんなことに迷〳〵といふ言葉、ねたましいやうにはやつてゐる自分に氣づき、涙をボロ〳〵と落した。

女のえごとでもいはうか、英佐子は赤ん坊のやうに、やけにすねて、双葉が一緒に行くといふのにも耳もかさず、敏一が途中まで送つてあげようといふのもふりきつて、トランクを一つさげて、逃げるやうにして家を出て行つた。

幸ひ、汽車はすぐに出るところであつた。英佐子は切符を買ふとそのまゝホームに入らうと思つたが、後から敏一が追つかけて來るやうな氣がして、何度も後方の改札をふりかへつた。

「又そんなことを思つてゐる…」



つてゐる時ではない、兄さんの生命が、あぶないのかも知れない、戰爭に行つて、はなばなしい戰死をしたお兄さんに申しわけがない。行かう」

英佐子は思ひ直して立ち上つた。旅からかへつたばかりなので、荷物もそのまゝでいゝのである。

替へ着を一枚と、日用品を小さなトランクにつめると、英佐子は敏一の部屋に行つた。双葉と敏一との會話がヒタととまつた。英佐子はハッとしたものを感じてたじろいたが、思ひきつたやうに二人の前に手をついていつた。

「では、行つて參ります」

敏一に心をひかれながら、英佐子はそれを斷ち切るやうな思ひで戰地の兄のところへ行く決心をしたのである。

「でも、さうですね、汽車の時間が……」

敏一は汽車の時間表を取り出した。

「いえ、驛に行けば分ります。もう、じつとしてはゐられません。」

英佐子は立ち上つてから、いら

英佐子は自分を叱るやうにして、スタ〳〵と歩いて行つた。

驛頭は、應召兵の人や、見送りの人が多く、英佐子が乘りこむとみんな通路をよけるやうにして道をあけてくれた。

騒々しい、聞きなれない響の中に、英佐子はホーム側の窓下に席を取つた

「思ひきつて早く來てよかつた」

英佐子はコンパクトを出して顔を直しながらさう思つた。

「兄さんがよろこぶだらう。でも、どの程度の傷で、どこをやられてるのか知ら」

初めて、兄の傷が氣になつた。汽車が早く出てくれゝばいゝ、一分間でも早く着いてくれゝばいゝ。英佐子がそんなことを思ひながら、フツと顔を上げると、敏一と双葉があはたゞしく驛の改札を通りすぎた。

英佐子が窓をあけて顔を出すと驛の大時計がけたゝましく鳴り響つた。

開業
一、産婦人科
一、外科一般
一、花柳病科
六月二十三日ヨリ診療ニ應ズ
小名濱町小學校前
黑澤醫院
醫學士　黑澤廣
（元土井醫院跡）

御婚禮御着附
パーマネントウエーブ
和洋結髪
オゾン美顔術
御染髪洗毛
御爪美術
◎御婚禮用の〃かつら〃も御座います。
平市驛前
水野化粧院
電話六七八（營業所）五二五（自宅）

…建築設計…
…企業商談…
…結婚旅行…
…出産姓名…
…職業適否…
「鑑定」
平市白銀町
石島陰陽館
電話六五〇番

吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番
醫學士　吉田久雄

花柳病科　外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

夏物は
是非！
當店から
（在庫豐富）

玉屋洋品店
平 田町通 電話六五六番

平市田町
鈴木醫院
電話五八番

芳醇！
美味！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

病室增築、手術室完備
醫學博士
産科 婦人科　五十嵐雄二
平市新川町　電話三六九番

貸家
場所　平市七軒町三五
作山誠一住宅
御希望の方は市内三丁目横山商店（電話六番）へ御問合せ下さい

敬神崇祖！日本精神
御靈前に
お盆提灯
供へて祖先を敬ひませう
低物價政策に順應して今年は値上げせず、お早い御註文品には絶對代用品を使用致しません。
▽是非!!! お早く御註文願ひます
スガノヤ提灯店
平・四　電話九五番

代用　鐵管　エタニツトパイプ

	耐壓封度	內徑	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト繼手代
D級	250	50	3m	3.76	2.25
〃	250	75	3	5.58	2.75
B級	100	100	3	5.80	4.05
〃	100	150	4	13.20	6.07

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

開院
歯科全般
口腔外科
歯列矯正
平郵便局ウラ通り
平市南町四十五
鈴木歯科醫院
東京齒科　醫學士　鈴木與一郎

吸入用酸素　99%純度
體温計
寒暖計
度量衡　計量器
ハカリ　マス　モノサシ
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
◎寫眞材料一式販賣致シマス
關内藥局
電話四〇番

御客樣に御願ひ
時局柄誠に御迷惑には存じ候へ共諸物價高騰物資節約の折柄爾今貸切自動車料金はその都度現金にて御支拂被下何分御了察の上倍舊の御援助御利用賜り度御願ひ申上げ候
昭和十四年七月
平市貸切自動車
營業者一同